

## 安来高校植物図鑑（2022年4月）

### 和名: ナズナ（薺）

春の七草の「なずな」です。愛でる菜という意味の撫菜(なでな)がいつの間にか「なずな」になったと言われています。どちらかと言うと花よりも実のほうが有名ですね。実の形を三味線のバチに例えてペンペン草と呼ばれています。花はとても小さいのですが、ナズナはアブラナ科の仲間なので、菜の花と同じような花が咲きます。第2体育館の傍で5年くらい前には見かけていました。それ以降タイミングを逸して写真を撮れずにいました。今春、やっと再会することができました。



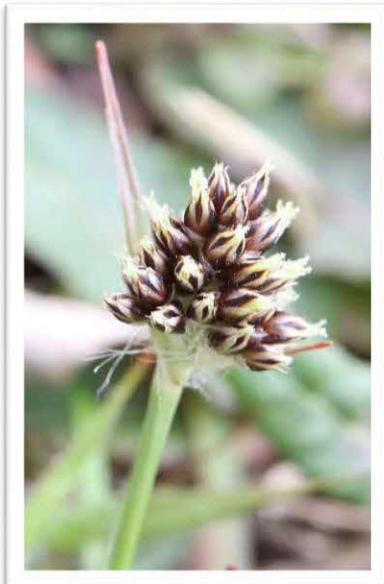
### 和名: ノジスミレ（野路堇）

日本に自生するスミレの種類は約200種類と言われています。スミレだけで図鑑が一冊作られているくらいです。花の形は似たりよったりで、花の色や葉の形、毛の有無、裏側にある距(きょ)という部分の特徴などで種類を見極めます。私はスミレの種類はわかりません！でも安来高校に咲いているのだから、逃げるわけにもいかず…。様々な文献を調べて、特徴が最も一致するノジスミレだろうと推察しました。スミレは紫色が鮮やかで気品があり、美しいと思う花の代表格です。



### 和名: スズメノヤリ（雀の槍）

植物の名前の最初に「スズメ」がつくと「小さい」という意味になります。沢山の花が集まった頭花の形が毛槍(けやり)に似ていることからこの名前になったそうです。スズメが持つような小さい毛槍という意味なので、毛槍と言えば大名行列を思い起こします。スズメがこの植物を持って行列を成しているところを想像した昔の人は感性があるな、と思いました。



前回紹介したミミナグサがやっと咲きました。在来種であるミミナグサ(上)と、外来種であるオランダミミナグサ(下)を比べて載せておきます。違いがわかりますか？

春になりカエルがたくさん現れました。冬眠から覚めたのでしょうか。写真はアマガエルで、周囲に合わせて色を変えています。カメラのレンズをかなり近づけて



も逃げませんでした。目覚めたばかりなので鈍いのかもかもしれませんね。